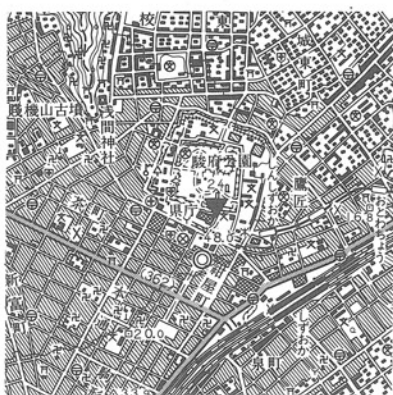


- 調査は県庁別館の建設に伴って実施された。東側隣接地（駐車場建設地）から出土の木簡についてはすでに本誌第九号に報告がなされ



(静岡)

れている。

今回の調査地点は「駿府城御城絵図」によると、三の丸のうち、「御城代向屋敷」に相当しているが、明治以降の攪乱により、近世駿府城の遺構としては井戸土坑が検出されたのみである。

木簡が出土したのは流路SR〇一で、駐車場地点の木簡が出土した流路に続くものである。幅七～九m、深さ一・二m程で、覆土は上層（シルトと砂の互層）と下層（青灰色粘土層）に分かれる。遺物の大半が下層からの出土で、木簡(1)は土師質土器、陶磁器、漆器椀、曲物、櫛、しゃもじ、下駄、陽物形木製品などとともに下層から出土し、(2)は上層と下層の境から出土した。

三の丸は、慶長二年（一六〇七）の修築の際、本丸、二の丸までであった天正期の駿府城を拡張したものといわれる（『当代記』）。流路の年代は慶長一二年以前と考えられる。

8 木簡の釈文・内容

- (1)
- ・「 $\angle$ □ □ □ □ □」
座力
- ・「 $\angle$ □ □ □ □ □」
- (2)
- ・「 $\angle$ □ □ □ □ □」
- ・「 $\angle$ □ □ □ □ □」
- ・「 $\angle$ 登斗 とちた □ □ □ □ □」
ね力
- 78×21×4 032
- 134×24×2 032

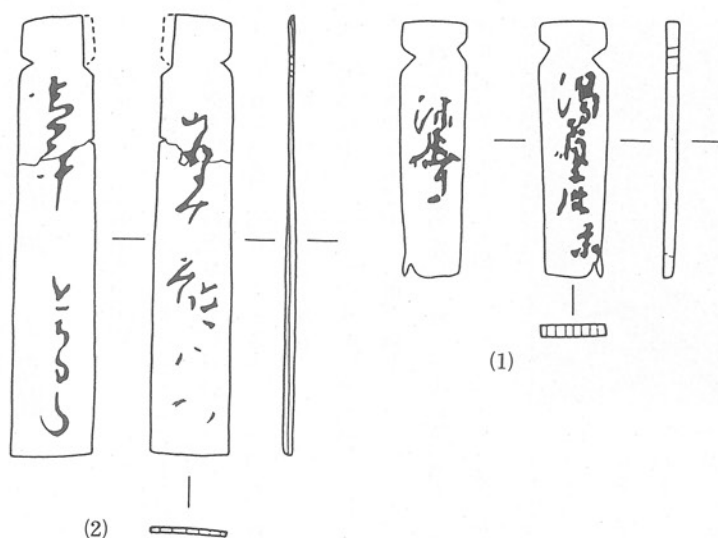
(1)(2)とも上部左右両側に切り込みが入る。いずれも表裏に文字が書かれている。(1)の表第四字は小さく右に寄せて書かれている。(2)は二片に分離し、上端の一部が欠損する。表は中央に文字の書かれない余白がある。裏も中央に余白をおいて仮名四文字が続く。(1)(2)とも表裏で文字の始まる位置に差がある。

なお、木簡の釈読にあたっては、原秀三郎・湯之上隆岡氏のご教示を得た。

9 関係文献

静岡県教育委員会『駿府城三の丸跡・駿府城内遺跡』（一九九四年）

（佐藤正知）



静岡・駿府城跡

すんぶじょうあと

1 所在地 一 静岡市駿府町、二・三 静岡市駿府公園

2 調査期間 一 一九八七年（昭62）十一月～一九八八年一〇月、二 一九九〇年（平2）五月～一九九一年五月、三 一九九二年七月～一九九三年二月

3 発掘機関 静岡市教育委員会

4 調査担当者 一 伊藤寿夫・岡村 渉、二 山本宏司・八木広

尚・稲 智穂、三 山本宏司・岩田智穂

5 遺跡の種類 城館跡

6 遺跡の年代 中世～近世



（静岡）

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

駿府城跡は、安倍川によって形成された扇状地（静岡平野）の中央を南に延びる微高地上に所在する。標高約二二mのこの微高地は比較的安定した場所であり、弥生時代中期から近世まで